

Enjoy Country Life YASUDA TOWN

自然体で暮らす／いなか王国・高知県安田町

# まんま

MANMA

Vol. 19

2017  
NOVEMBER  
[平成29年11月]

「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」  
日本遺産に認定されました!



ゆずロードの風景とゆずバージョンの安田朗

“まんま”が  
いちばん!!

巻頭・町長に聞く  
いまの安田町と、  
これからのまちづくり

# ふるさと百景

## 安田町今昔物語



大正元年の明神口橋(木製下路式トラス架設)



昭和14年の明神口橋



昭和49年の明神口橋

『治山林道の変遷』(高知営林局 1973年)より

こんにちは!

僕は「安田朗<sup>あんたろう</sup>」です。

ゆずバーションで初登場したよ。

今回のまんまでは、

日本遺産に認定された

「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」の

ストーリーについての魅力など

安田町のえいところや

おいしい食べ物、

頑張っている人たちを

こじやんと発信するさね!

みんなあも安田町に

遊びに来てよ!



## まんま Vol.19 目次

## Contents

巻頭・町長に聞く

いまの安田町と、

これからのまちづくり

特集●祝!「日本遺産」認定

「森林鉄道から

日本一のゆずロードへ」

安田の素敵な人々

安田家店主 武田隆生さん

発見! まちの話題

高校生が地酒「南」のラベルをデザイン

安田まちなみ交流館<sup>和</sup>

志国高知 幕末維新博に合わせ

「石田英吉展」を開催

安田町のファンづくり

「安田と体験バスツアー」

「ふるさと納税」

安田に帰ったら味わって

安田の味「わが店のおすすめ」

巻頭・町長に聞く

# いまの安田町と、 これからのまちづくり

## 住民目線に立った行政で 公約を実現

町長就任から

1年が経ちました。

あつという間の1年でした。この1年間は、住民目線に立った行政を職員とともに考え、実践することに徹底的に取り

き展開します。特に積極的に取り組むたいのが、高齢者が安心して暮らし続けるためのまちづくりです。その実現に向けて、運転免許を返納した高齢者の方などが不自由しないことを目指し、デマンドバスなどの交通手段の整備を計画しています。既存の公共交通と組み合わせ、「安田型」の住民サービスを確立したいと思います。もちろん、安田町の要である農業振興も欠かせません。

また、町の活性化に向けて、さまざまな「種まき」をしている最中です。例えば、スペインの大都市との姉妹町提携を計画中で、まず文化交流から始め、

組みました。なかでも公約で掲げた3つの施策、「保育料完全無料化」「職員が伸び伸びと仕事ができる職場改善」「総合庁舎の建設基本計画の策定」に力を入れてきました。保育料無料化は29年度に実現。役場の職場改善については、来庁された皆さんから「雰囲気が変わっ

さらに提携によって新たな産業を生み出したいと考えています。今後、皆さんに成果をお知らせできるように頑張ります。

## 町外に暮らす、町出身者の皆さんにメッセージを。

これまでと同様、皆さんが生まれ育った安田町が活気を取り戻していく姿を、ぜひ見守っていただきたい。

町では、「安田の夢まつり」を毎年夏に実施して賑わいを創生するほか、本誌「まんま」を通じて町の情報をどんどん発信し、皆さんに安田町での楽しい思い出をつくってもらったり、ふるさとを懐かしんでもらいたいと思

てきた」といううれしい言葉をいただけるようになりました。総合庁舎の建設基本計画についても、農協や郵便局を併設するという方向付けができ、本年度中に設計施工業者の選定を行う予定です。

今年4月には、新たに「地域創生課」を設置しました。安田町を含め、全国の地方自治体では人口減少と少子高齢化が進み、それに伴って様々な課題が突き付けられています。この課題に正面から取り組み、将来に向けたまちづくりを進めていくためには、職員自らが考え、課題解決に向けた取り組みを提案するボトムアップの姿勢が強

います。そして、安田町に帰って暮らしたい！と皆さんに言うていただけるような町政を進めていきます。

く求められます。そこで、総合的に企画・立案・執行管理を行う、まちづくりの司令塔となる課を設置しました。

## 町の活性化に向けた 様々な仕掛けが進行中

今後の町政を

どのように考えていますか？

昨年度に計画した公共事業を順次実施に移していくほか、町長室の開放日や中山支所での執務日にお聞きした住民の皆様のご意見を行政に生かしていくことを目指します。

活気あふれるまちを取り戻すための施策については、引き続

「町の活性化に向けて、さまざまな種まきをしている最中です。」と語る

安田町長  
黒岩 之浩



◆森林鉄道と日本一のゆずロードMAP  
町内の国指定重要文化財6箇所をご紹介します。



**1 釜ヶ谷橋**  
大正15年建設で、全長12.3mのプレートガーダー橋。橋桁の一部は当時のまま、今も県道として使用している。



**2 釜ヶ谷棧道**  
昭和2年建設で、全長12.3mの魚梁瀬森林鉄道の中では珍しい石造アーチ橋。巨石が埋め込まれているかのような不思議な景観。



**4 オオムカエ隧道**  
明治44年建設で、全長37.6mの石造隧道。町道の一部として使用されており、近代化産業遺産群にも認定。



へえ〜  
そうなんだ!



**5 バンダ島隧道**  
明治44年建設で、全長37.5mの石造隧道。現在も町道の一部として使用している。



**6 エヤ隧道**  
明治44年建設で、全長33.2メートルの石造隧道。安田川に沿って緩やかにカーブしている。



●ゆず畑の景観  
中芸地域のゆず畑の栽培面積は213ヘクタール。生産量は3000トンを超え、日本一を誇る。

今は使われなくなった小さな隧道や、ゆずの木が並ぶ風景、柚酢をたずぷり使った料理…。そんな安田町を含む中芸地域の「あたりまえ」が今年4月、「森林鉄道から日本一のゆずロード」のストーリーとして、「日本遺産」に認定されました。

日本遺産は、地域の文化財や伝統文化を、その歴史的な経緯や受け継がれている伝承、風習などを踏まえた「ストーリー（物語）」の下にパッケージ化し、地域の活性化を図ろうというもの。これまでに全国で54件の地域が選ばれており、今年度認定されたのは17件。そのうちのひとつとして選ばれたのが、安田、奈半利、田野、北川、馬路

の5町村で申請していた、「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化」です。安田町内では、森林鉄道遺構など10カ所が日本遺産のストーリーを構成する文化財として指定。また、ゆず畑の風景やゆず料理も指定されています。安田町で日本遺産巡りを楽しみましょう!



**3 明神口橋**  
昭和4年建設で、安田川にかかる森林鉄道の代表的な遺構。近代化産業遺産群にも認定。

祝! 「日本遺産」認定  
「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」  
ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化



JAPAN HERITAGE

日本遺産

# 「日本遺産」の誇りを住民の心に

## 産業の歴史が魅力的なストーリーに

安田町はこれまで中芸他の町村とともに、魚梁瀬森林鉄道の日本遺産認定に向けた推進協議会を設置して活動を進めてきました。しかし、森林鉄道は過去の遺産であり、現在の地域の魅力は何なのかという点が、認定では問われました。そこで浮上したのが、ゆず畑の風景です。

「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化」のストーリーは、林業からゆず栽培

へと移り変わる産業の歴史です。

藩政時代から日本有数の杉の

産地として栄え、その運搬のために、かつては西日本最大の森林鉄道が駆け巡った中芸地域。林業の衰退とともに、それに代わる産業としてゆず栽培に力を注ぎ、今や日本の生産量を誇っています。かつての軌道は、ゆず畑の風景が広がる「ゆずロード」に生まれ変わりました。

このような歴史や景観、ゆずを活かした食文化の魅力が評価され、79件の応募のうち、認定はわずか17件という狭き門を見事に突破し、日本遺産に認定されました。県単独で

## 日本遺産認定を地域の誇りとして

日本遺産は、認定を受けて終わりではありません。認定から3年間にわたって受けることができる補助金などを使い、中芸地域を訪れた人が、その魅力を体感できるような仕組みづくりが始まります。例えば、5町村でのゆず畑の美しい風景スポットの選定や、森林鉄道遺構など構成文化財を活用したイベントの開催、拠点施設の整備などのアイデアが協議会で上がっています。

「やはり地域の人に関わってこれないと、日本遺産といえども尻すぼみになってしまいます。日本遺産に認定されるほど素晴らしいストーリーを持った歴史や自然、文化のあ

る地域に暮らしているという誇りを、子どもから大人まで持つていただきたい。そこから、地域をより良くしようという気持ちが生まれ、ひいては交流人口を増やすことにもつながります。そのような地域住民の心を生み出すことこそが、日本遺産の目指すところだと思えます。もちろん、町出身者の皆さんも生まれ故郷の快拳を誇りに思っていただけ、どんどん取り組みに関わってもらえるといいですね」と安田町文化振興企画員の村茂生さん。

観光や交流の起爆剤になると、期待が集まる今回の認定。協議会の会長でもある黒岩町長は、「日本遺産は中芸はほかに比較できるものない大きなプロジェクト。中芸が活性化することができなければ、今



中芸のゆずと森林鉄道  
日本遺産協議会の会長  
を務める  
黒岩之浩安田町長

の認定は四国内では初めてです。認定後、協議会は「中芸のゆず」と森林鉄道日本遺産協議会」と名称を改め、中芸5町村が一丸となつて日本遺産を活用した地域活性化に向けた事業を推進していくことにしています。

回の認定をいかに活用するかにかかっています。地域住民にその魅力の再認識を促し、国内外に魅力を発信して、交流人口の拡大を図っていきます」と意気込みを語ります。



魚梁瀬森林鉄道のジオラマ

安田町の酒蔵、南酒造場では、高知県立高知南高校の生徒とコラボレーションして、主要銘柄「南」のオリジナルデザインのラベルを制作しました。

南高校ではキャリア教育の一環

## フレッシュなアイデア、キラリ! 高校生が地酒 「南」のラベルをデザイン 南酒造場



県立高知南高校の生徒とコラボレーションしてデザインし、373本限定で販売された地酒「南」のラベル。

として、高知の活性化をテーマに高校生の視点で解決策を考え、提案する学習を実施。その中で、「土佐酒をもっと若者に拡散しよう」というテーマを考えた4人の女子高生のグループからラベルを提

安田町に帰ってきたのは、2014年。山口県の商業施設で店長を務めていたのですが、母

が体調を崩したことから、生まれ故郷の安田町にUターンしました。「ふるさと納税の返礼品として安

## 若い世代の頑張りが 町の活性化につながる!



安田 隆生さん (35歳)  
店主

田漁港に揚がる鮮魚を取り扱わないか」と声をかけられたことがきっかけで、安田町の恵みを全国の人に知ってもらいたいと、鮮魚店「安田家」を始めることにしました。いまはふるさと納税返礼品のほか、鮮魚や惣菜の小売りもやっています。町内の店舗が減っている中で、少しでも地域の人に役立てればと思っています。

それまで食品を扱う経験がなかったので、開店にはなかなか勇気がいりました。しかも、僕は魚が苦手で…(笑)。でも、苦手な分だけ逆に探究心がわき、いかに美味しく食べてもらえるか、生臭みを消すかなどについて勉強して、近隣の魚屋さんにも認めてもらえるようになりました。

案させてほしいという依頼を受け、ラベルづくりが始まりました。

「せっかく生徒さんが高知県を盛り立てようとしているので、役に立てればと協力しました。最初に提案されたデザインは、若者向けとはいえ斬新すぎて…(笑)。何度もやり取りを重ね、デザインを決めていきました」と話すのは、南酒造場の南さん。

高知をアピールするために四国のシルエットを入れて、ここをもう少し濃い色にしてもいいかな、などアイディアを出し合いながら、今年春に完成にこぎつきました。高知らしい太平洋の荒波や南高校の校章の黄色をバックに、「南」の文字がくっきりと映えるデザイン。校章もあしらわれています。「南」に

町に帰ってきて思うのは、食の豊かさです。魚はもちろん、野菜も豊富。土佐あかうしという美味しい肉もあります。人付き合いもとてもフレンドリーなので、Iターンにもおすすすめです。これからは僕ら若い世代が頑張っていきたいと、町の発展はないだろうと思います。地域のお祭りで新しいことに取り組んでみる

など、新しい試みを僕らの世代がチャレンジし、上の世代の皆さんが応援してくれればいいですね。



新鮮な素材で作られた鮮魚や惣菜の数々



コラボレーションのラベルについて語る、南さん

ちなみに373本限定で販売しました。「ボトルの裏には、デザインをした生徒さんの名前も入れました。南高校は2021年に学校統合で校名が変わってしまうので、いい記念になったのではないのでしょうか」

「南」つながりで、生徒たちの学びに「役買った南酒造場。思い出に残るラベルづくりになりました。」

安田まちなみ交流館・和（なみ）

町出身の偉人にスポット

# 「石田英吉展」を開催

石田英吉さんってどんな人？

高知県で行われている「志国高知 幕末維新博」に合わせて開催された「石田英吉展」。安田町出身の偉人と言われますが、その知名度はいまひとつ。

では、石田英吉とはどのような人物なのでしょう。

天保10年（1839）、土佐の国安芸郡中山

平成29年3月4日から11月26日まで安田まちなみ交流館・和で開催の「石田英吉展」が、予想を上回る好評を博しています。人気の秘密を探ってみました。

村（現・安田町中山）の医者の子に生まれた石田は、24歳で脱藩したのち、天誅組や忠勇隊で活躍。坂本龍馬が率いた海援隊にも加わった幕末の志士でした。戊辰戦争にも参加します。維新後は明治政府に出仕。長崎県大参事、秋田県権令、千歳県知事を歴任し、高知県知事にも就任します。貴族院議員も務め、明治34年（1901）に63歳で亡くなりました。「石田英吉展」では前期・後期に分け、前期は

「維新回天編」と題して幕末までの活躍を、後期の「明治国家建設編」では維新後の歩みを紹介。前期展示が行われていた3月から6月だけで、12000人を上回る入館者を数えています。



企画展について説明する久保さん

対話型ガイドで  
より深く、魅力を紹介

「来た人に満足して楽しんでもらおう」というのが、安田まちなみ交流館・和のキャッチフレーズ。来ていただいたお客様の要望があれば当館の4人のスタッフがガイドを務め、一緒に館内を回って対話型で説明をしています。石田英吉のことをよく知ってもらおうというスタンスを、スタッフで意思を統一しています」と話すのは、同館のスタッフとしてガイド役を務めるひとり、久保徹郎さんです。

案内に熱が入るのも当然のこと。「石田英吉展」では、調査や展示内容の設計、説明文の制作まで、すべて同館のスタッフが行いました。なかには、石田英吉も写った維新の志士の集合写真から人物を特定し、その相関を探るなど新しい発見もあったとか。前期に引き続いて後期



男爵に叙された石田英吉（個人蔵）

展示にも訪れる人も多く、「後期も来ましたよ」と来場者から声をかけられることも多いそうです。

「石田英吉は後半生、官僚を極めた人物だと思います。そのぶれない生き方が魅力的です。そして、海援隊にいたことで、先進的な考え方を取り込んでいたのだでしょう、50歳近くなって2年間欧州へ留学するなど、とても開明的な人物だったことにもひかれます。政治家とし

てよりも、官僚として明治の国を支えた人が安田町出身者にしたのだということ、しっかり伝えたいと思います」と、久保さんは意欲を見せます。

運んでみてください。

安田まちなみ交流館・和では今後、安田町出身者の石田英吉や高松太郎（のちの坂本直）が参加した海援隊をテーマにした企画展を計画しています。安田町に帰ったときには、ぜひ足を



企画展用のチラシ  
(上)前期展  
(下)後期展

安田まちなみ交流館・和  
安田町安田1674番地1  
TEL 0887-38-3047  
HP(ホームページ)  
<http://yasuda-nagomi.com/nagomi/index.html>



安田町産「マンゴーゼリー」太陽の恵みをいっぱい浴びて育った飲むゼリー。



中山地区特産の自然薯「とろろん一番」(冷凍ずりおろし)夏はあっさりぼん酢で、冬はお鍋にピッタリです!



安田町じまんのナス 果肉が柔らかくて甘く、アクが少ないので生のままサラダでも食べることができます。



土佐鶴のみくらべ6本セット バラエティ豊かな銘醸・土佐鶴酒造の6本セット。絶妙な飲み口の違いをお楽しみください。



「土佐あかうし」モモスライス 熟成された赤味には旨味や甘みがたっぷり



清流安田川で採れた天然鮎 安田川の鮎は「全国清流めぐり利き鮎会」で2度のグランプリに輝いており、その味は全国屈指の美味しさです。

●寄附のお申し込み方法

ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」

HP(ホームページ) <https://www.furusato-tax.jp/>

または安田町HPからお申し込みください。

なお、電話・郵便・FAX・電子メールなどでご連絡いただいた方には「寄附申出書」をお送りします(安田町HPからのダウンロード可)。必要事項を記入のうえ、安田町役場地域創生課までお送りください。

ご寄附は下記(1)～(4)のいずれかの方法をお願いします。

- (1) 郵便振替
- (2) 金融機関からの振込み
- (3) 現金書留によるご送金
- (4) 役場出納室での納入

●お問い合わせ先・寄附のお申し込み先

安田町役場 地域創生課

住所 :〒781-6421

高知県安芸郡安田町大字安田1850番地

TEL :0887-38-6713 FAX:0887-38-6780

E-mail :sousei@town.kochi-yasuda.lg.jp

HP(ホームページ) <http://www.town.yasuda.kochi.jp/home.htm>



マンゴー大福「安田の白い夢」

販売・お問い合わせ先 安田と夢ファクトリーキララ 〒781-6421 安芸郡安田町安田1760番地1 TEL/FAX:0887-30-1735 営業時間:10:00～18:00 定休日:火曜日(祝祭日の場合は翌平日)



季節のショートケーキ

オーブンして今年で5年目となるキララは安田町をはじめ、中芸地区で採れた果実を使い、大きなケーキをみんなでシェアして食べてほしいという思いからケーキを作っています。生産者が近くさわやかな味わいが好評で、安田町はもちろん、県内外からケーキを求め、ファンが訪ねてきます。マンゴー大福「安田(あんだ)の白い夢」、季節ごとに旬の果実をふんだんに使ったフルーツケーキはおすすめです。冬には、安田町で採れた文旦を使ったタルトも販売します。町にお立ち寄りの際は、ぜひご賞味ください。



季節のショートケーキ

ふるさと納税 安田町自慢の逸品をご紹介します。



みんなで記念撮影

農業体験に続き川遊び体験の開催!

あなた 安田と体験バスツアー

清流安田川での川遊び体験に高知市などから親子26名が参加!

安田町では、町外に町の魅力を発信しようとして、平成24年度から「安田町のファンづくり」を目的に「安田(あんだ)と体験バスツアー」を開催しています。ツアーでは、農業体験と川遊び体験の2コースを設定していて、今回紹介する「川遊び体験」は、清流安田川での川遊び体験等を通じて、安田川の豊かな自然をPRしようとする企画。高知市など町外在住の親子13組26名が参加しました。

当日は晴天に恵まれ、川遊びには絶好の日和になりました。午前7時30分

に高知市を出発。安田町に到着後、まず、子どもたちは、エビ箱作りに挑戦。地元の方の説明を熱心に聞き、汗を流しながら一生懸命に作っている子どもたちの様子が印象的でした。



手長エビに大興奮



エビ箱の作り方を勉強中



大人も子どもも熱中!



エビ箱作りに挑戦中

流がとても良かった。」などの回答をいただき、大好評。安田川の美しさとその恵みを満喫した一日になりました。町では、今後も各種交流事業を通じて、安田町のファンを育てていく取り組みを続けていきます。



安田朗も大好き！

## 安田の味「わが店のおすすめ」



### 味工房じねん

日替りの手づくり弁当  
520円

季節の野菜や山菜などがたっぷり。ご飯はもちろん中山米で、家庭的な味付けの人気商品。

焼きさば寿司 350円

ゆず酢をしっかり利かせた、中山らしい寿司。脂ののったさばとさっぱり酢飯がマッチ。

竹内幸恵さん



### ●味工房じねん

安田町正弘566番地 TEL:0887-39-2366  
営業時間:7時～15時(土・日・祝日は～16時)  
休:第3木曜

お弁当や寿司、かき揚げなどの総菜など、毎日10数種類、手作りします。遠方からもお客さんが来てくれています。



### 土佐の元気市

大判焼き(粒あん・白あん) 100円

あんこや皮も手作り。作り置きをしないので、いつも焼きたてのおいしさが楽しめます。

ソフトクリーム 300円

安田町産のフレッシュな牛乳を使用。牛乳のおいしさが伝わる優しい甘さに、リピーター続出。

### ●土佐の元気市

安田町安田1716番地6  
TEL:0887-38-3320  
営業時間:8時30分～18時  
休:第3水曜

ソフトクリームも大判焼きも、手作りにこだわっています。納得がいくまで試作を重ねた自信作です！

小松美喜さん



### 編・集・後・記

今年は、中芸地域の「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」のストーリーが日本遺産に認定され、今後の活性化への期待が高まります。「まんま」を通して、町外で暮らす方々に町の魅力が幅広く伝わると嬉しいです。これからも安田町の応援よろしくをお願いします!!



お問い合わせは

### 安田町役場 地域創生課

〒781-6421 高知県安芸郡安田町大字安田1850番地  
TEL.0887-38-6713 FAX.0887-38-6780  
HP(ホームページ) <http://www.town.yasuda.kochi.jp/home.htm>  
E-mail [sousei@town.kochi-yasuda.lg.jp](mailto:sousei@town.kochi-yasuda.lg.jp)

安田町役場 中山支所

〒781-6430 高知県安芸郡安田町大字正弘716番地2  
TEL.0887-39-2008 FAX.0887-32-4008